



介護の魅力と価値を高めるのはあなたです

介護福祉経営士 ニュース KFK News

2018
10.31
No.52

CONTENTS

介護福祉経営士
活動レポート Vol.22

第3回 全国介護福祉総合
フェスティバル in 福岡
国際化が進む日本の介護
——国境を越えた介護文化の連携を
目指して——

2

第3回
「介護福祉のみらい」作文
コンクール

5

●INFORMATION

6

●今月の「介護ビジョン」
●今月の書籍紹介

7

イベント掲示板

8

【介護福祉経営士 活動レポート Vol.22】

第3回 全国介護福祉総合 フェスティバル in 福岡

国際化が進む日本の介護

——国境を越えた介護文化の連携を目指して——



一般社団法人
日本介護福祉経営人材
教育協会

お問い合わせ先

一般社団法人日本介護福祉経営人材教育協会 事務局
☎ 03-3256-0571 <http://www.nkfk.jp>

制作:株式会社日本医療企画

編集・発行人:林 諄

〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町17番地
ニッテン神田ビル3階

9月29日(土)・30日(日)の2日にわたって開催された「第3回 全国介護福祉総合フェスティバル in 福岡」。講演やパネルディスカッション、参加型イベントなどさまざまなプログラムが催された。その模様をレポートする。

第3回 全国介護福祉 総合フェスティバル in 福岡

国際化が進む日本の介護 ——国境を越えた介護文化の連携を目指して——

アジアの玄関口・福岡で開催 国境を越えた介護文化について考える2日間

一般社団法人日本介護福祉経営人材教育協会は、9月29、30日の2日にわたり、福岡県中小企業振興センター(福岡市博多区)で「第3回全国介護福祉総合フェスティバル in 福岡」を開催した。台風24号によるあいにくの天候にもかかわらず、介護福祉経営士をはじめ介護福祉に携わる多様な立場の方々、950名が来場した。今年は、アジアを中心とした各国の超高齢社会への突入を前に、「国際化が進む日本の介護——国境を越えた介護文化の連携を目指して——」をテーマに講演やパネルディスカッション、参加型イベントなどが繰り広げられた。

オープニングセレモニーでは、主催者・実行委員長として同協会の多田宏代表理事が登壇。関係団体や関連企業へ協賛への感謝を述べるとともに、「介護福祉経営士は1,000人を超えた。介護現場では、ICTや介護ロボットの導入、地域包括ケアにおける多職種協働、外国人介護人材

への対応など、さまざまなことが求められている。この2日間で大いに議論したい」と会場に呼びかけた。

本大会実行委員長代理で日本介護福祉経営人材教育協会九州支部長の冨永健司氏は歓迎の挨拶で「人口減少とともに経済も縮小している。2025年問題や110兆円を超える社

会保障費の削減など山積する課題に対し、介護事業者も対応していかなければならない」と、介護事業者の置かれている立場を述べた。

テープカット後、特別養護老人ホームで介護福祉士として働きながら、シンガーソングライターとして活躍するかんのめぐみさんのコンサートが行われた(写真A)。また、「介護のみらい」作文コンクールの受賞作品が発表された。

「国際化」をキーワードに 白熱したパネルディスカッション

本フェスティバルのメインテーマ「国際化」に関するパネルディスカッション「アジアを舞台とする日本型介護の可能性」は、福岡アジア高齢社会デザイン協議会会長の小川全夫氏、株式会社ソーイングボックス専務取締役、ハノイ大学非常勤講師の菅沼蔵人氏が登壇。コーディネーターは株式会社ウエルビー代表取締役の青木正人氏が務めた。

小川氏は、アジアと日本の高齢化の違いについて、「日本は国自体が豊かになってから、高齢化問題に突き当たった。しかし、アジア諸国は豊かになる前に高齢化問題が現れる」と分析。アジアでは家族介護が主流という現状も踏まえ、日本流をそのまま取り入れるだけでなく、その国にあわせたやり方を提示する必要性を強調した。

2日目にも国際化をテーマとしたパネルディスカッション「日本介護の国際化、介護産業の将来像」が行われた。社会福祉法人手稲ロータス会理事でNBlab代表、介護福祉経営士の神内秀之介氏をコーディネーターに、株式会社桜十字代表取締役の梶正登氏、医療法人芙蓉会代表の前田俊輔氏、社会医療法人愛仁会高槻地区事業統括

写真A





部長で社会福祉法人愛和会本部統括部長の坪茂典氏の3者が登壇した。

福岡県大野城市を拠点に医療・介護を展開している医療法人芙蓉会では、介護人材派遣の合弁社をメンバーに設立し、外国人技能実習制度などを活用した介護人材確保に取り組んでいる。前田氏は合わせて現在開発しているICTシステムについて説明し、「特に中国ではITの活用は必須だが、日本で使われていないシステムは、海外では通用しない」と、国産製品の開発の必要性を強調した。

二刀流を進める上で、継続のコツや 広がりをもつポイントを議論

パネルディスカッション「介護×○○○ 二刀流のすゝめ」では、コーディネーターに未来をつくるkaigoカフェ代表の高瀬比左子氏、登壇者として福岡福祉向上委員会代表の大庭欣二氏、NPO法人地域医療連携団体.Needs代表理事の伊東浩樹氏、エレッツ株式会社代表取締役で冒険家・起業家の山口義哉氏、介護福祉士・シンガーソングライターのかんのめぐみ氏の4人が登壇。

介護事業の経営支援と介護業界の人材確保に取り組む大庭氏は「元々戦略を練るのが得意」と自らを分析。介護×人材の視点から、「辞めない→成長する→集まる」のスパイラルを生み出す仕掛けづくりに取り組んでいると話した。

介護×エンターテインメントを謳う山口氏は、劇団を引き連れて登場(写真B)。「運営しているデイサービスでは職員が個性的な服装をしているので、10人中9人には引かれる。でも、残りの1人が選んでもらえればいい」と、万人受けはあえて捨てた戦略と説明するとともに、純粋に楽しみながら介護をすることで若者にアピールする狙いもあると話した。

2日目にも高瀬比左子氏は登壇。人気の「未来をつくるKAIGOカフェ」のパネリストは、宅老所よりあい代表の村瀬孝生氏、株式会社つなぐ広報の落水洋介氏、合同会社

MUKU代表の佐伯美智子氏、Happy Care Life株式会社代表取締役の中林正太氏の九州各地から集まった4名。「居場所づくり」を軸に、日頃自身が取り組んでいる活動を紹介した。

介護福祉経営士によるパネルディスカッション「介護福祉経営士が描く未来のビジョン 地域を変える これからの介護とは」については次号で詳しくお伝えする。

高齢社会の新たな生き方 高齢者も元気に活躍する地域づくり

会期中は多彩なテーマの講演が多数あった。初日の特別講演で登壇した『ペコロスの母に会いに行く』の著者、岡野雄一氏は、認知症によりグループホームに入所した母とのふれあいの日々を漫画化し、のちにドラマ・映画・舞台化されている。岡野さんは、学生以来20年間離れていた故郷長崎県に戻り、両親と共に暮らすようになったことで「親子関係を再構築するような感じであった」と振り返った。

地元福岡県朝倉市で介護事業を展開する社会福祉法人寿泉会の法人統括本部長、稲葉圭治氏は、「人材不足のための補充」では成功しない『共に働く仲間』としての外国人人材の受け入れ」と題した講演を行った。同法人ではEPAを活用して、フィリピン人介護福祉士候補生を2010年から採用。これまでに8人全員が介護福祉士国家試験



写真B



写真C

に合格している。講演では、同法人に務める外国人介護職の動画も流れ、「標準語を学んでいたのが、いざ現場にきたら方言を覚えるのが大変」など、流暢な日本語で率直な話をする姿に、うなずく来場客も多くいた。

「寝たきり芸人」のあそどつぐ氏と「自撮りおばあちゃん」として知られる写真家の西本喜美子氏の講演も注目を集めた。あそどつぐ氏は脊髄性筋萎縮症により、顔と左手の親指以外が動かない中、芸人として活動。「左手の親指が動かせるからサウスポー」などと、自らの障害を笑いに変えて自己紹介をしたほか、漫談とコントを披露。会場は笑いの渦に包まれた。西本氏は、72歳のときにカメラ教室に行ったことを機に、カメラに夢中になったと振り返る。「新しいことにチャレンジするのが好き。とりあえずやってみようと、いつも思っている」と語り、カメラ以外にも好きなことを90歳を過ぎても挑戦していると話した。

福岡県北九州市を拠点に航行している株式会社スターフライヤーの代表取締役社長執行役員、松石禎己氏は「スターフライヤー 漆黒の翼、感動を乗せて～顧客満足度9年連続第1位獲得とV字回復の取組み」と題して講演した。お客様目線のサービスは、社員自らが乗客の靴を磨く「靴磨きサービス」などにも反映。松石氏自身も磨き、直に乗客と会話する場をもつことで、今自分達に求められているのが何かを気付ききっかけになっているようだ。

株式会社いんどり代表取締役社長の横石知二氏は「葉っぱビジネス」の仕掛け人として知られる。講演では、「高齢者も元気に活躍する地域づくり」をテーマに、同社の取り組みとそこから得たものを語った。

サブステージは充実の参加型イベント 介護×ICTが生活を変える

2年連続開催の「介護×ICTミーティング」。ファシリテーターを務める株式会社ビーブリッド代表取締役の竹下康平氏が台風24号の影響により来場できず、急遽スカイプを使っての遠隔参加となった。

株式会社ロジック取締役COOの福島成典氏は、スマー

トフォンを使った訪問介護・看護支援を行うクラウドサービス「Care-wing 介護の翼」について紹介。訪問先でネットを利用しての購入支援をするといった保険外サービスにつなげるアイデアなども披露し、「介護保険内だけでは限界がある。収入を得られる仕組みづくりが必要」と指摘した。

株式会社ウェルモ代表取締役CEOの鹿野佑介氏は、福岡市内でITとAIによる情報共有のシステムづくりに着手している。「ケアプラン作成時に、AIで医療的な部分を補足・補助することで、ケアマネが不得意とする部分をサポートする」と話し、ケアプランの質向上のみならず、業務負担軽減にもつながる考えを示した。

貝塚ケアサービス研究所代表の貝塚誠一郎氏による介護技術向上セミナー「貝塚式 こころと身体で覚える介護技術」では、ベッドでの移乗と車いす介助の2回に分けて開催された。実演を交えながら講義をするともに、参加者も実践してもらうことで、よりわかりやすく介護技術を伝えた(写真C)。

その他、株式会社True Balance専務取締役の山下まゆり氏による「体験型健康医学教室で地域包括ケアの中心になる」、ChatWork株式会社常務取締役CMO山口勝幸氏による「時短と離職防止に効く！クラウド会議による介護現場の生産性革命とは」、株式会社やさしい手代表取締役社長香取幹氏による「処遇改善加算活用による人材採用戦略と、キャリアパス構築による介護人材定着」、芙蓉グループ代表の前田俊輔氏による「AI介護ソフトで人材不足を解決—職員の質に依存しない、科学的介護の実現—」など、幅広いテーマのセミナーに参加者も満足した様子であった。

また、フェスティバル中に介護福祉経営士受験対策講座が行われ、参加者は受講後、CBT方式による資格認定試験を同じ会場で受験。4人の合格者が誕生した。

最後に、クロージングセレモニーが行われ、介護福祉経営士の逆瀬川陽祐氏、足立彩氏により「福岡・介護文化宣言」が発表され、2日間にわたるフェスティバルは幕を閉じた。





第3回「介護福祉のみらい」作文コンクール

山形県立山辺高校の岡田^{かな}葉奈さんが最優秀賞！

一般社団法人日本介護福祉経営人材教育協会は、将来を担う中学生、高校生が、介護や福祉の大切さを知り、未来について考え発表する場として、第3回「介護福祉のみらい」作文コンクールを実施した。4月2日から6月29日にかけて作品を募集し、全国より寄せられた420編から黒澤貞夫審査委員長（一般社団法人介護福祉指導教育推進機構代表理事）のもと厳正な審査が行われ、下記のとおり入選作品が選出された。

最優秀賞に輝いた岡田^{かな}葉奈さん（山形県立山辺高等学校）は、「高校生の素朴な感情をしっかりとした文章でまとめており、目の付け所やフレーズが素晴らしい」との評価を受けての受賞となった。

優秀賞は3名が受賞。佐藤萌絵さん（群馬県立吾妻中央高等学校）は「高齢者と子どもが集まれる場づくり＝これから重要となる地域福祉のあり方についての提言となっており、社会的に意義がある作品」、増田千紘さん（栃木県立真岡北陵高等学校）は「全盲の方との触れ合いを通して、できないことではなくできることがたくさんあることに気づくべきであるという非常に重要な見方を獲得していることをしっかりとした文章で表現している」、柏倉まりあさん（同）は「できることまでやってあげるのではなく、助けが必要なところを支える『自立支援のあり方』についての学問的な内容となっている」と評価された。

佳作は2名が受賞。中尾仁知香さん（兵庫県立日高

高等学校）は「学校で先生から教育を受けて考えたことをまとめてあり、高校生の主張としてとても大事な内容である」、浪華花梨さん（同）は「実習での経験から素朴に感じたことを書いているが、1年生でよい経験をしている。実習内容も非常によい」との評価を受けた。

次号より、受賞作品を順次紹介する。



黒澤審査委員長 講評

高校生が現時点で経験したことは、本人たちの人生を考えれば出発点であり、貴重なものである。その経験を豊かにしていくことが教育の役割ではないか。本人が「思ったこと」「考えたこと」は事実であり、それが生活である。その生活をベースとして表現しているこれらの作文は、大人も気づかないようなことを教えてくれているものであろう。高校生の素朴な思いが、我々にも大きなヒント、示唆を与えてくれるものである。学問は物事を概念化・抽象化してしまい、事実からは離れていく。しかし、これらの作文はまさに事実であり、だからこそ共感を得るものである。このような経験から学問は生まれるのだということに改めて感じる事ができた。受賞に漏れた作品もそれぞれ素晴らしい。



第3回「介護福祉のみらい」
作文コンクール 受賞者



最優秀賞

作品名
「福祉の在り方と福祉の意義」
岡田 葉奈さん
(山形県立山辺高等学校 福祉科2年)



優秀賞

作品名
「win・winな関係作り」
佐藤 萌絵さん
(群馬県立吾妻中央高等学校 福祉科1年)

作品名
「私の気持ち相手の気持ち」
増田 千紘さん
(栃木県立真岡北陵高等学校 教養福祉科2年)

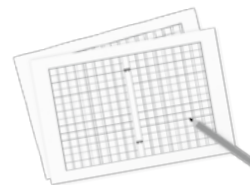
作品名
「小さな親切大きなお世話」
柏倉 まりあさん
(栃木県立真岡北陵高等学校 教養福祉科3年)



佳作

作品名
「私の目標」
中尾 仁知香さん
(兵庫県立日高高等学校 福祉科2年)

作品名
「言葉の持つ力」
浪華 花梨さん
(兵庫県立日高高等学校 福祉科2年)



INFORMATION

理事会、支部、事務局からのお知らせをお伝えします

第3回 全国介護福祉総合フェスティバル in 福岡

閉幕のお知らせと御礼

このたびの全国介護福祉総合フェスティバル in 福岡の開催にあたりまして、格別のご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

台風24号によるあいにくの天候の中、950名の方々にご参加をいただき盛会のうちに終えることができました。

ご来場いただいた皆様、趣旨に賛同いただいた協賛企業・後援団体の皆様に心より感謝申し上げます。

一般社団法人 日本介護福祉経営人材教育協会

福岡・介護文化宣言



今、日本では、高齢や障がいによって介護が必要になっても、最期まで自分らしい人生を送れるような地域づくり、社会づくりが進められています。

その実現に向け、これからの時代の価値観を貫く「新しい介護文化」の創造がもとめられています。

一方で、アジア諸国では日本をしのぐ急速な高齢化が予測されており、世界で例のない超高齢社会を生きる私たちの挑戦は、海外諸国から大きな注目を集めています。

私たち介護福祉経営士は、介護福祉分野で積み重ねた知見や経験を海外諸国に伝えていくと同時に、お互いの国の「介護文化」を尊重し、国境を越えて共有することで、これからの日本の新たな国際貢献につなげていくことをここに宣言します。



2018年9月30日

一般社団法人 日本介護福祉経営人材教育協会

地域のニーズをすくい上げ
地域から超高齢社会を支えていくための
視点を具体的事例とともに掲載

地域介護経営

地域
特集

認知症との多様なかかわり方を提示 東京都町田市

認知症の人が働くデイサービスや、市内にある全スターバックスが認知症カフェを開催するなど、さまざまなアプローチで認知症にかかわっている東京都町田市。市内の介護事業者や関連職種が積極的にこうした取り組みを支えている。認知症の人にやさしいまちづくりに取り組む東京都町田市の挑戦を追う。

「今月のInnovator」は、金沢大学大学院特任教授鈴木信孝氏。補完代替医療分野の中でも、特に各種機能性食品群の臨床研究が専門。日本補完代替医療学会を立ち上げて自ら理事長を務める。



介護が変わる 地域が変わる **介護ビジョン**

地域介護経営

認知症との多様な
かかわり方を提示

東京都 町田市

鈴木信孝
金沢大学大学院
特任教授
今月の
Innovator

人生100年時代に変わる介護教育
よりアクティブに
現場を学ぶ

2018年11月号
(2018年10月20日発売)

詳しくは **介護ビジョン** 検索

- 毎月20日発行
- 定価：1,296円(税込)
- 定期購読料：15,552円(税込)

今月の
書籍紹介

2019年 介護福祉士国家試験対策 JMP模擬試験 基本問題編 + 応用問題編

国家試験過去問をベースに、予想問題(最新トピックや関連分野問題)を収載
2019年1月試験合格へのラストスパート!

介護福祉士国家試験は、昨年度から専門学校等の2年の専門的教育課程を経ていない者に対しては、受験時には実務者研修の450時間の受講と修了が義務付けられたため、受験のハードルが高くなっているが、合格率はここ5年平均で65%程度と決して低くない。過去の国家試験を分析したこの模擬試験を活用し、介護現場の中核を担う介護福祉士の確保につなげてほしい。

「介護福祉士国家試験対策JMP模擬試験」のポイント&活用方法

- ◆ 出題傾向を徹底分析。2019年度1月実施試験の出題予想を網羅!
- ◆ ご自宅に「問題&マークシート」1セットが届きます。空き時間を有効活用できます。
- ◆ 解答・解説書&個人成績表をお届けします。弱点の発見と克服に役立ちます。
- ◆ 模擬試験受験者には、試験対策に役立つ特典をもちろんプレゼント!
- ◆ 職場での受験仲間・同僚との勉強会等にもご活用ください。

基本問題編	弊社へのマークシート返却日(必着)	発売～	10/16(火)～ 11/14(水)	11/15(木)～ 12/5(水)	12/6(木)～ 1/8(火)
	成績表発送予定日	10/23(火)	11/22(木)	12/13(木)	1/15(火)
応用問題編	弊社へのマークシート返却日(必着)	発売～	11/6(火)～ 11/22(木)	11/23(金)～ 12/11(火)	12/12(水)～ 1/8(火)
	成績表発送予定日	11/13(火)	11/30(金)	12/19(水)	1/15(火)

- 発行：日本医療企画
TEL.03-3256-2861
- 基本問題編(税込)：3,888円
- 応用問題編(税込)：3,888円
- セット価格(税込)：6,480円

介護福祉経営士に必要な知識や情報が得られるイベントを、支部の研究会を中心に紹介。スキルを磨き、経営士同士が切磋琢磨できる場として人気の研究会も多いので、ぜひ参加しよう。

東北支部

医療・介護・栄養でイノベーションを起こすための“石井ゼミ” in 東北

全国で開催中の“石井ゼミ”が、東北で開催される。東北の医療・介護福祉・栄養3経営士が一堂に会し、イノベーションを起こす人材になるために必要な知識・スキルを習得するとともに、新たな東北ネットワークの構築に活用してほしい。

- 日時：2018年7月14日(土)、9月1日(土)、11月10日(土) 各回14:00～17:00
- 講師：石井富美氏(多摩大学医療・介護ソリューション研究所フェロー)
- 会場：PARM-CITY131 貸会議室
(宮城県仙台市青葉区一番町3-1-16)
- 受講料：協会会員：(各回)5,000円
一般：(各回)10,000円 ※税込
- 定員：各回30名 ※定員になり次第、締め切らせていただきます。
- 共催：株式会社日本医療企画 他

お問い合わせ 株式会社日本医療企画 東北支社
TEL.022-281-8536

関西支部

医療・介護の現場力を高める 認知症ケアとカンファレンス

超高齢社会において不可欠である「認知症ケア」をテーマに、ケアの基本から、ホワイトボードを活用したケアカンファレンスの有効な進め方まで、講義とグループワークを通じて医療・介護の「現場力」向上をめざす。

- 日時：2018年11月17日(土) 14:00～17:00
- 講師：平野亨子氏(医療法人マックスシール マックスシールスクール顧問・専任講師、認知症ケア上級専門士)
- 会場：上田公認会計士事務所セミナールーム
(大阪府大阪市中央区道修町1-7-10 扶桑道修町ビル2F)
- 受講料：協会会員：2,000円、一般：3,500円 ※税込
※研究会終了後、懇親会を予定(自由参加/会費4,000円)
- 定員：35名

お問い合わせ 株式会社日本医療企画 関西支社
TEL.06-7660-1761

中国支部

弁護士が教える！ 医療・介護現場のクレーム対応・風評被害対策

SNSや口コミサイトの情報が医療機関や介護施設の印象や集患に大きく影響する時代、風評被害対策や悪評を未然に防ぐためのクレーム対応は必須といえる。顧客からのクレームだけでなく、退職者によるネット上の書き込みなどに悩まされるといったケースも少なくない。そこで、クレームの予防対策から特殊なクレームへの対処法、ネット上での書き込み削除の手続き、損害賠償請求までの流れなど、もしもに備えるためのポイントを解説する。

- 日時：2018年11月10日(土) 14:00～16:00
- 講師：牛見和博氏(弁護士、中小企業診断士、税理士、医療経営士3級)
- 会場：山口県教育会館3階 会議室I(山口県山口市大手町2-18)
- 受講料：協会会員：2,000円、一般：3,000円 ※税込
- 定員：20名

お問い合わせ 日本介護福祉経営人材教育協会 中国支部
(株式会社日本医療企画 九州支社 内)
TEL.092-418-2828

日本医療企画

中小介護事業所の経営者・リーダー必見!! 介護事業の生産性向上セミナー

人材確保が困難をきわめるなか、今後急拡大する介護ニーズに対応していくため、介護事業者には生産性向上に向けた取り組みが求められている。「民介協」では、中小介護事業者による生産性向上策について調査研究事業を実施し、テキストに取りまとめた。本セミナーは同テキストを元に、介護事業所の生産性向上を進めるポイントを学ぶ。

- 日時：2018年12月15日(土) 16:00～18:00
- 講師：小笠原浩一氏
(東北福祉大学大学院教授、日本介護福祉経営人材教育協会理事)
- 会場：ニッテン神田ビルセミナールーム
(東京都千代田区神田東松下町17番地 ニッテン神田ビル3階)
- 参加料：5,000円 ※テキスト付き ※税込
『地域密着型サービスの生産性をいかに高めるか——小規模多機能型居宅介護と定期巡回・随時対応型訪問介護看護の生産性向上マニュアル』
- 定員：40名 ※定員になり次第、締め切らせていただきます
- 共催：一般社団法人「民間事業者の質を高める」全国介護事業者協議会
- 後援：一般社団法人日本介護福祉経営人材教育協会

お問い合わせ 株式会社日本医療企画 セミナー事務局
TEL.03-3256-2885

日本医療企画

30年同時改定を踏まえた未来戦略セミナー ～超高齢社会のビジネスに求められる視点とは～

平成30年度の診療報酬改定は、6年に1度の介護報酬との同時改定になるとともに、医療介護総合確保方針、医療計画、介護保険事業(支援)計画、医療保険制度改革などの医療と介護に関わる関連制度の一体改革にとって大きな節目となる。本セミナーでは、高齢者施設運営の成功例を紹介し、超高齢社会のビジネスに求められるものが何かを考える。

- 日時：2018年11月24日(土) 13:30～17:00
- 内容：
基調講演「30年改定後の医療機関それぞれの取り組み」
長英一郎氏(東日本税理士法人代表社員・所長、介護福祉経営士、医療経営士)
- 事例紹介「高齢者施設を運営する建設会社が明かすここだけの話」
西田泰久氏(進和建設工業株式会社専務取締役)
- 事例紹介「満室経営を続ける高齢者施設支配人が語る運営の成功ポイント」
辻本充彦氏(サービス付き高齢者向け住宅「雅庵」支配人)
- 会場：アットビジネスセンターPREMIUM新大阪
(大阪府大阪市淀川区西中島5-14-10 新大阪トヨタビル9F)
- 参加費：無料
- 定員：100名 ※先着順
- 共催：進和建設工業株式会社

お問い合わせ 株式会社日本医療企画 関西支社
TEL.06-7660-1761

介護福祉指導教育推進機構

次代の地域福祉・介護教育の中核的リーダーを育てる! 黒澤塾

60余年にわたり、高齢者・障害者生活支援の教育と実践に携わってきた黒澤貞夫氏の直接指導による「黒澤塾」を開講。次代の地域福祉・介護教育の中核的リーダーを育てることを目標に、講義と議論・グループワークで、マネジメント能力・指導力に磨きをかける。研究テーマに厚生労働省「介護福祉士養成課程の教育内容の見直し」の項目を基軸として掲げ、実践していくための具体策を研究する。参加は1回から可能。

- 日時：2018年11月7日、11月21日、12月5日、12月19日、2019年1月9日、1月23日
各水曜日 17:00～19:30
- 会場：ニッテン神田ビルセミナールーム
(東京都千代田区神田東松下町17番地 ニッテン神田ビル3階)
- 参加費：全6回 110,000円(入塾料10,000円、受講料100,000円)
※介護福祉教育エキスパート修了者は入塾料無料 ※税込
各回 20,000円 ※入塾料は不要 ※税込

お問い合わせ 黒澤塾事務局(日本医療企画内)
TEL.03-3256-2863 URL.http://kaigo-education.jp/